

高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画

「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」は、高齢者に関する保健・福祉施策の目標や介護給付サービスの種類ごとの見込量などを定めた計画で、市町村が3年を一期として定めるものです。今回の計画は、平成30年度から平成32年度までの計画で第7期目となります。

計画の基本理念は、「自由に生きがいを追求できる豊かな、そして、安心して、住みつけられることのできる地域社会」です。このため、高齢者が住み慣れた地域、自宅ですべて安心して住み続けられるよう、健康の維持・増進、要介護の状態になることを防止するための総合的な対策を推進していきます。

■標準給付費見込額

項目	平成30年度	平成31年度	平成32年度	第7期合計	平成37年度
標準給付費見込額	33億 4千万円	35億 2千万円	37億	105億 6千万円	42億 8千万円
高齢化率	27.4%	28.1%	28.8%	—	30.8%

※標準給付費見込額は、団塊の世代が全て75歳以上となる平成37年度まで増加を見込んでいます



高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画

特に、第5期・第6期計画で取り組んできた医療、介護、介護予防、住まいおよび生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムをさらに前進させるため、「自立支援、介護予防・重度化防止の推進」「在宅医療の充実及び在宅医療・介護連携を図るための体制の整備」「日常生活を支援する体制の整備」などに、重点的に取り組んでいきます。

※計画の全文は、市ホームページでみることができ、市民の皆さまにご協力いただいたアンケートの集計結果も掲載しています

第13回まち交大賞国土交通大臣賞(最優秀賞)受賞 「砂沼周辺地区都市再生整備計画事業」

6月15日に東京都文京区のすまい・るホール(住宅金融支援機構本店)で第13回まち交大賞表彰式が行われ、全国で140を超える完了地区の中から、市の「砂沼周辺地区都市再生整備計画」が最優秀にあたる国土交通大臣賞を受賞しました。まち交大賞は、都市再生整備計画に基づくまちづくりにおいて、優良な計画が策定され、事業の実施、評価、改善において優れた取り組みを行った地区を対象として表彰し、関係者の栄誉をたたえるとともに、受賞地区の事例を全国に幅広く紹介することで、地域の創意工夫を活かしたまちづくりを促進することを目的として実施されるものです。

市の取り組みは、まちづくりの積年の課題を解決する拠点施設(Waiwaiドームしもつま、さん歩の駅サン・SUNさぬま)の整備にあたり、市民協働で行った各種ワークショップによるまちづくりの担い手育成や、プレイスメイキング※1による事業効果促進など、産学官民が連携し多様な主体によるまちづくりの推進と継続性が特に評価されました。



表彰式の会場(すまい・るホール)



表彰の様子

下妻市が地方再生のモデル都市に選出

国土交通省と内閣府が連携し、都市のコンパクト化と地域の稼ぐ力の向上に、ハード・ソフト両面から総合的に取り組む地方再生のモデル都市として、市が全国32都市の1つに選定されました。これは、国の各種支援メニューによりモデル都市の取り組みを集中的に支援し、目に見える形での都市の再生を目指すものです。

市の取り組みの特徴は既存ストック(整備済の都市施設)を活用し、スポーツをまちづくりの手段として使う「スポーツ環境デザイン」や「プレイスメイキング」により地域の価値向上を図るものです。取り組みの一環として、8月4・5日にWaiwaiドームしもつまで「Waiwaiスポーツパーク2018」が行われ、北海道×茨城県プロジェクト※2のプログラムにも組み込まれています。スポーツの可能性を実感できるイベントですので、ぜひご来場ください。

Waiwaiスポーツパーク2018

8月4日(土)10:00~17:00

○スポーツパークミッションラリー

各ブースに用意されたミッションに挑戦し、スタンプを集めると抽選会に参加できます。

○センターコート

茨城ロボッツバスケットクリニック、DASダンスステージ、スポーツ鬼ごっこ他

8月5日(日)10:00~16:00

下妻一高・二高軟式テニス部 公開練習試合
ソフトテニスの魅力をお届けします!

8月4日(土)、5日(日)両日

○北海道×茨城フードマルシェ

北海道と茨城県、農畜産物ナンバー1&2の食の競演

○北海道日本ハムファイターズスクラッチカード

無料配布、枚数限定、先着順、北海道日本ハムファイターズグッズが当たるスクラッチ

主催:まちづくり市民グループ「しもつま3高」

協力:株Waisportsジャパン、北海道×茨城県プロジェクト他

後援:下妻市、下妻市教育委員会、(一財)地域活性化センター



スポーツパークミッションラリー(イメージ)

※1:一人一人が居心地の良い居場所づくり、その手法

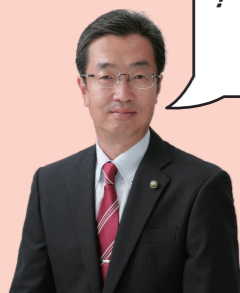
※2:筑波大学による体育・スポーツ研究成果の社会還元化活動の視点から、プロ野球の北海道日本ハムファイターズと連携して始まった日本初のプロジェクト「産学官民公が連携したスポーツを活用した新しい県南西エリアの活性化(交流人口・インバウンド増加等)」の事業

新規事業 「どこでも市長室」で市長と意見交換 ～申込団体募集～

「どこでも市長室」は、地域で活躍されている団体などの皆さんと市長が、身近な課題について話し合い、市民協働のまちづくりや市政に係る情報共有を深める取り組みです。

市民が主役のまちづくりを進めるため、市内各所が「どこでも市長室」になります。

「こんなまちになったらいいな!」「こんなことをやってみたら?」などの皆さんの意見・提案をもとに、市長と意見交換しませんか。



まちづくりの主役は皆さんです!

■対象 市内在住・在勤などの10人以上で構成される市民団体・自治区・グループなど

■開催日時 申込団体と協議の上、決定します。おおむね60分程度を予定しています。

■申込方法 市長と話し合いたいテーマ(子育て・社会福祉・教育・環境・都市基盤・行財政運営など)を決め、市民協働課までお申し込みください。

※特定の政党や宗教を支持する団体、営利を目的とする団体などは利用できません

第2期地域福祉計画 (平成30年度~34年度) 第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画 (平成30年度~32年度)

市では、社会福祉法に基づき「第2期下妻市地域福祉計画」を、障害者総合支援法および児童福祉法に基づき、「第5期下妻市障害福祉計画」・「第1期下妻市障害児福祉計画」を策定しました。

計画期間は、「第2期下妻市地域福祉計画」が平成30年度から平成34年度までの5年間、「第5期下妻市障害福祉計画」・「第1期下妻市障害児福祉計画」が平成30年度から平成32年度までの3年間となっています。

地域におけるさまざまな生活・福祉課題とそれに対応する必要なサービスの内容などを明らかにし、子どもから高齢者まで年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で自分らしくいきいきと生活できるまちづくりを目指しています。

※それぞれの計画の全文は、市ホームページに掲載してありますのでぜひご覧ください



第2期地域福祉計画



第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画